

**第1回 石油精製・利用技術関連分野に係る技術に関する  
施策・事業評価検討会  
議 事 要 旨**

1. 日時 平成26年2月7日(金) 9:30~12:00

2. 場所 経済産業省本館9西8共用会議室

3. 出席者

(検討会委員) [敬称略・五十音順、※は座長]

内山 洋司	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 リスク工学専攻 教授
小川 芳樹	東洋大学大学院経済学研究科 教授
小野崎正樹	一般財団法人エネルギー総合工学研究所 プロジェクト試験研究部 部長/研究理事
黒川 俊夫	株式会社価値総合研究所 特別相談役
※松方 正彦	早稲田大学理工学術院先進理工学研究科 教授

(研究開発実施者)

木村 繁	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 部長
豊岡 義行	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 調査役
高澤 隆一	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 上席主任研究員
中岡 哉徳	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 上席主任研究員
三谷 尚洋	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 主任研究員
林 宏	一般財団法人石油エネルギー技術センター技術企画部 研究員
田中 祐二	一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新 燃料部 部長
斉藤 吉則	一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新 燃料部 担当部長

渡邊 学 一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新  
燃料部 上席主任研究員  
遠藤 明 一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新  
燃料部 上席主任研究員  
大場 伸和 一般財団法人石油エネルギー技術センター自動車・新  
燃料部 主任研究員  
高井 康之 J×日鉱日石エネルギー株式会社 研究開発企画部  
担当マネージャー  
小笠原 巖 J×日鉱日石エネルギー株式会社 技術部 担当マネ  
ージャー

(事務局)

高橋 浩昭 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油精製備蓄課  
課長補佐  
橋本 晃誓 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油精製備蓄課  
係長

(評価推進課)

吉川 秀夫 産業技術環境局 技術評価室 課長補佐

4. 配布資料

- 資料 1 石油精製・利用関連分野に係る技術に関する施策・事業評価  
検討会委員名簿
- 資料 2 研究開発評価に係る委員会等の公開について
- 資料 3 経済産業省における研究開発評価について
- 資料 4 評価方法 (案)
- 資料 5 石油精製・利用関連分野に係る技術に関する施策・事業の概  
要
  - A 革新的次世代石油精製等技術開発 (終了時評価)
  - B 石油燃料次世代環境対策技術開発 (終了時評価)
  - C 高効率水素製造等技術開発 (終了時評価)
  - D 重質油等高度対応処理技術開発 (中間評価)
- 資料 6 評価用資料
- 資料 7 評価報告書の構成 (案)
- 資料 8 評価コメント票

## 質問票

参考資料 1 経済産業省技術評価指針

参考資料 2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料 3 平成 22 年度中間評価報告書（概要版）

## 5. 議事

### (1) 座長選出

委員の互選によって、松方委員が本検討会の座長に選出された。

### (2) 評価検討会の公開について

事務局から、資料 2 により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、知的財産権保護等の観点から、検討会については非公開、配布資料・議事録・議事要旨については公開とすることが了承された。

### (3) 評価の方法等について

事務局から、資料 3、4、6、7、8 により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

### (4) プロジェクトの概要について

事務局及び研究開発実施者から、資料 5 により、本プロジェクトの概要について説明があり、以下の質疑応答がなされた。

主な質疑は以下のとおり。

- ・ ナフサラッカーが競争力を失っていく中で、ライトナフサや基礎化学品をどうしていくかという点を書き込んでほしい旨のコメントがなされた。
- ・ E10 を含め、バイオエタノール比率はどこまで対応できるのかという質問があり、E10 までは JIS 規格にある E10 対応車であれば問題がないが、それ以上は影響が大きくなると回答がなされた。
- ・ バイオ燃料をどう普及させていくのか、海外との連携を含めて、より効率的にデータを取得してうまく社会に広める観点をもってほしい旨のコメントがなされた。
- ・ 今後、様々な性状の原油に合わせて、現在の製油所の装置でより収率を上げることができる研究で将来性があるとコメントがなされた。
- ・ いろいろな研究をやっているが、具体的に実用化できるところを見つけ、

早く結果を出して先につなげていくという回転になるよう工夫をしてほしい旨のコメントがなされた。

- ・研究成果に対する費用対効果として、実装したときの経済効果を定量的に示してほしい旨のコメントがなされた。
- ・研究成果の意義について、特に日本の産業界の国際的な競争力であるとか、施策的な意義であるとかいうところを強調し、あるいは明確に書いて、少し前広に書き込んでほしい旨のコメントがなされた。

(5) 今後の評価の進め方について

質問票の提出期限を平成26年2月13日、評価コメント票の提出期限を平成26年2月17日とすることを確認した。また、第2回評価検討会については、評価コメント票を取りまとめた後、平成26年2月下旬を目途に書面審議とすることとした。

(6) その他

特になし

以上